

イマヌスフ 米国出身の元カトリック信者（1 / 4）

:

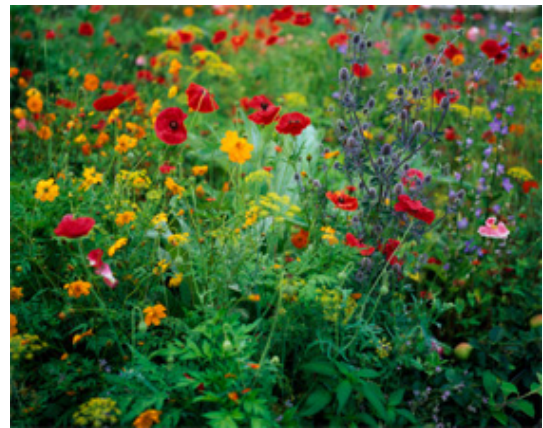
明:神への道を探し求めていた彼女に し、いかに道が示されたか。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: イマヌスフ

ED6 Jul 2015

集日 13 Jul 2015



それが によるものであれ、イスラ ムへの改宗は くべきことであり、アッラ によって されるだけ者に与えられる、最も大きな慈悲です。そして私の 合、それはさらに大きなものでした。正に、それは奇 に他なりませんでした。アルハムドリッラ （神にこそあらゆる称 あれ）。

私がイスラ ムという言葉 、または何が「ムスリム」なのかを知るよりもはるか以前に、アッラ は私のフィトラ（神によって与えられた天 の性 ）を通して、私にいかに生きるべきかを示し、 いてくれました。それはとても信じられないようなエピソードです。私をお きくださった神こそにすべての称 あれ。

1981年の初夏、イスラ ムという り物は、一年の に渡ってゆっくりと私に授けられました。それは私の人生において最も困 で、どん底の状 にあった でした。

私は米国で生まれ育ちましたが、祖父母はドイツとオーストリアの出身でした。

私は心なカトリック信者でした。その信仰をひたむきに 践し、それを心から信じていました。当 の私の夫はカトリック信者でなかっただけでなく、神 者であったため、婚生活は破 寸前となっていました。

そのことは私を ませていたものの、1979年に娘が生まれるまでは深刻な ではありませんでした。しかしそれ以降、 的な不安と苦しみの原因となりました。

彼は娘の洗礼 式を めはしましたが、彼女が宗教的な 境で育つことに り ではありませんでした。いかなる も彼を えることはできず、婚当 に彼が教会で署名した宣誓 の中の、生まれてくる子供をカトリックとして育てるということを誓った部分を思い出させて も でした。

彼は、娘がいかなる神を信じたり信仰を持ったりすることも拒否し、私の信仰だけでなく、神をもばかにするようになりました。

私はこの件についての解 を望み、年の知り合いである牧 に相 に ってもらうことにしましたが、彼は殆ど手を差し伸べてはくれませんでした。私はこの について、彼が真 に 取り もうとはしていないと感じました。

彼は私の娘の信仰 よりも、私との 婚生活の を解 させたいかのようでした。彼は、私の夫が神を ったり嘲ったりした に感じる私の苦痛を、まったく理解できていませんでした。

それだけでなく、彼は娘にとってそれが成 と共に非常に い影 となるであろうことも理解していませんでした。私はいずれ、娘と教会へ行くことを夫が妨げるようになるのではないかと恐れていたのです。

牧 との会 はなぜか の方向へと し、カトリックの原理についての し合いになりました。私ははっきりとは えていないものの、三位一体についての をしました。

私が受け取った答えは、3つの神格が一人の位格に存在するという、至一般的なものでした。その についてさらに突っ んだ をすると、牧 は苛立ちを せ、もし私が「そうしたをしなければならないのであれば、もともと信仰がないのだ」と言い放ちました。

今にしてみれば、彼は私以上にその教 の「神秘」について 明をすることができなかつたため、そうした反 をしたことは理解できますが、当 の私はショックを受け、 ついて いました。

私はあたかも教会から追放されたかのように感じていました。神に近づこうとの思い からしたたった一つの 邪 な から、私は全く信仰のない人物であると なされてしまったのです。

私は足早に教会を立ち去り、牧 の 言についてずっと思い こんでいました。私は彼の 解を受け入れることはできませんでした。私は自身が信仰深く、神を信 する人物であることを 信しており、いかなる人物であれ、私にそうではないと思ひ ませることはできないのです。

しかしそれ以来、私は自身をカトリック信者であると なすことができなくなりました。当 の教会は混乱を めており、人々はこぞって宗教から去って行きました。私は自分がその中の一人になるとは思ってもいませんでしたが、突然その に加わることになったのです。

ろを振り返ることなく、私は真理を探求することにしました。しばらくの は、バイブルを んで勉 をしていましたが、自分が はそれについての知 がほとんどなかったことを知りました。カトリック信者は、バイブル よりも教会の公式教 により重きを置いていました。

私にとってバイブルは困 かつ支 裂で、日常生活についての指 が殆どないように思えました。それは なる物 の本にしか思えませんでした。

私は内心では自分が っていることを期待しつつ、地元のキリスト教会に を取り、宗教座に参加させてもらいましたが、それは最初で最 の となりました。彼らは福音主 者たちで、（々の神秘的宗教体 について） の分からないことを したり、 から「り物」を受け取ることなどに焦点を合わせていました。

そこはあまりにも し ぎていました。私は常に心の中に留めておくことのできる宗教を探し求めており、 やもう使用されなくなった言 について学 することではありませんでした。

その 、私は常々「真の宗教」であり「人 最初の宗教」であると かされていたユダヤ教について学び始めました。やがて、私はユダヤ人の母を持たないため、その「クラブ」から排除されました。

改宗そのものは可能だったものの、それは特に正 派を含む大多数のユダヤ教徒からは可されないものでした。さらに、彼らが神の 民であるという思想は、私をととても困惑させました。

特定の家系に生まれた者だけに真の宗教を授け、行いの善し しに わらず彼らだけに天国を与えるという神というものは想像できませんでした。それは公正ではないですし、公正でない神など存在し得るのでしょうか？

こうして、私は可能な限り色々な宗教を べ回るようになりました。ヒンズ 教、 教、道教、儒教 べれば べるほど、虚 を くスピ ドも速くなりました。私はイスラ ム以外の大抵の宗教を べました。なぜなら、イスラ ムに してはその存在すら知らなかったからです。

になり、なぜアッラ がまず他の 宗教を私に べさせたのかが分かりました。ようやくイスラ ムに辿り着いたとき、それが唯一の真の宗教であることを直ちに100%悟らせるためです。

当、私はとても 懐 かしい 持ちにありました。 婚 儀 の真っ只中にあった私は、 家 に 病 の祖父の 介 介 をしていました。世界で一番の 友 であり、私にとっての本当の「母」であった祖母 は、先の冬に突然亡くなり、母は私の自己 の 望 については 心 配 でした。私はとても孤独 でした。

私は活 躍 的な娘、病床にある祖父、家事、そして神からの距 離 感というものすべて背 負 いながら、大学への 学 習 を みていました。私にはいかなる信仰もなく、神が存在するという 知 識 だけが残っていました。私は虚 無 感で一杯でした。

私が 去 くに抱いていた神の概念は、神が存在するという 信 だけを除いて完全に消失し、その 信 のみによって私は神に祈り、常に 救 済 を求めています。

数ヶ月 に渡り苦しみ いた末、私は 理 論 的思考によって神を探しだそうと 思 いました。もし 神が存在するのであれば、神は私たちが何らかの特 別 な方法を用いて神を 出 現 することを望 んでいるはずだと考えました。

それは常に日常生活の一部であるような、真に神を崇 拝 し、 祈 る方法であり、 一 回 だけ思い出し、それ以外は忘れ去ってしまうようなものでないのです。

しかし何よりも、私は唯一の神、唯一の道という存在に 信 を持っていました。 々 々な宗 教 は神について主 張 しますが、道の定まらないものです。私はたった一つの道以外には 受け入れることはできませんでした。私には、それを 見 つけ出すことが必要だったので す。

この 事 のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/2388>

著作 2006-2015 断 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 断 を禁じます。